

事例 48 上下分離方式による鉄道運営（上毛電気鉄道：群馬県）

- ・ 鉄軌道整備法による欠損補助の打ち切りを受け、上下分離方式による鉄道沿線市町村及び県からの支援の実施。

背景

- ・ 上毛電気鉄道では、旅客の減少により 1970 年代後半から鉄軌道整備法による欠損補助を受けていたが、打ち切りが決定。
- ・ 鉄道存続に向け、群馬県及び前橋市等 7 市町村、関係者で上毛線再生等検討協議会が発足。対応
- ・ 1998 年 1 月に上毛線再生の基本方針が決定され、それに伴い、上下分離方式による公的支援を 1998 年度より実施。
- ・ 電路や線路等の設備及び車両修繕の一部に関する費用を県及び市町村が負担し、列車は鉄道会社が運行。
- ・ 公的支援に当たり、鉄道会社は収入確保を柱にした経営再建計画を策定し実施。



結果

- ・ 自治体による上下分離方式を導入することにより、鉄道会社の経営が安定するとともに、以前より設備近代化や輸送環境の整備がレベルアップ。
- ・ 一方、1998 年度に 257 万人いた利用者は 2005 年度には 182 万人まで減少し、経営状況は依然非常に厳しい状況にある。

課題

- ・ 今後も利用者の減少が予想されるため、沿線住民に利用を呼びかけるとともに、まちづくりの中に上毛線の駅を位置づけ、駅を利用しやすい周辺環境の整備や駅周辺に人の流れを促すような施策を実施するなど、事業者と自治体が連携した利用促進施策が必要。

現在は市町村合併により 3 市

（群馬県県土整備部交通政策課）